



まちのたから

# 発見



## 日野町内に残る城跡を訪ねて2

### 蒲生家の本拠地

## 「中野城跡」



▲日野川ダム堤防からのぞむ中野城跡全景(西大路)

日野川ダムの北側には、「日野城」とも呼ばれた「中野城跡」が残っています。今は、神社ややぶ、住宅、畑などになっていますが、ここは中世、日野の地を治めた蒲生家の本拠地とされる城でした。蒲生氏郷が伊勢へ移るまで、蒲生定秀、賢秀、氏郷といった武将たちの約60年の歴史が刻まれました。

### ●中野城の歴史

大永3(1523)年、それまで蒲生家の居城であった音羽城(音羽)が敵の攻撃を受け、籠城戦の果てに開城、

取壊しとなったために、新たな居城として「中野城」が築かれたと伝えられます。以後60年、蒲生家の本拠地として使われました。  
天正10(1582)年に起こった本能寺の変では、織田信長の家臣となっていた蒲生賢秀・賦秀(氏郷)親子が、安土城から信長の妻子を日野に避難させ、明智光秀に対して徹底抗戦を唱えていることから、中野城もその舞台となったと考えられます。  
天正12(1584)年、蒲生家が伊勢(三重県)松ヶ島へ移った後の詳しい様子はわ

かりませんが、慶長9(1604)年頃には、城内や城下町に残っていた建物が取り壊されたとされています。その後、元和6(1620)年に、越後(新潟県)三条から国替えとなった市橋家が、仁正寺(西大路)藩を開き、陣屋(藩邸)を建てましたが、中野城が再び城として使われることはありませんでした。

### ●中野城に残る遺構

中野城跡は、江戸時代以降の開発により、今は土塁(土手)や堀の一部が残るのみとなっています。しかしながら、現地の説明板にも印刷されている大正6(1917)年の「中野城趾図」等によって、ある程度当時の姿を復元することが出来ます。

江戸時代の資料には、中野城を「掻き揚げの城」と記したものがありませんが、これは、土を盛り上げ(掻き揚げ)造った城という意味です。中世、平地に造られた城としては、一般的な造り方ですが、その規模はこの地を治める権力者にふさわしいものでした。  
城はまず最初に1辺約

150m、幅約10〜20mの堀を口字型に掘り、その時排出した土砂や整地した際に余った土砂を堀の内側に盛り上げて、高さ約5〜10mの巨大な土塁を築いたと考えられます。この土塁の内側にあたる曲輪(平坦地)①は、一般的に「本丸」などと言われる場所で、面積はわたむきホール虹の建物がつっぱりと入ってしまうほどの広いものでした。現在は、土塁や堀の一部が残るのみですが、当時、ここには城主が政務を執った

り、生活をした館や、食料や武器を納めた倉庫、敵を攻撃したり見張りを行ったための櫓などの施設が建っていたことでしょう。  
ところで、中野城は戦国時代には城下町が造られ、さらにそれを土塁と堀で取り囲んだ「惣構」があったとされます。現時点では、全体像はわかりませんが、今後の調査等によっては、かつて町全体を囲って守った壮大な遺跡が見つかる可能性も秘めた城跡なのです。



▲中野城跡の様子